

座敷舞は、宴の余興で踊られる舞です。「ミイサイナ ミイサイナ」（見せてほしいという意味）というはやしをうけ、舞手が簡単な扮装をして、歌いながら物まねをするようなしぐさで、ユーモラスに踊る楽しく味わいのある舞です。

舞には、竿の先に鳥餅をつけて鳥を生け捕るしぐさをする鳥刺舞、力二の歩く様子をまねたガニ舞、仏とは何かをおもしろく問答する仏舞などがあります。

座敷舞は、笛や太鼓といった鳴り物がないことや、歌詞に種子島の方言が多くみられることから、中世の頃、中央から伝わった芸能が元となり、この島でつくられた踊りではないかといわれています。また「種子島家年中行事」に、江戸時代には西之表の西町では「大黒舞」を、東町では「恵比寿舞」を伝承していたという記録が残っています。

現在、座敷舞が伝承されているのは、平山と島間だけです。「鳥刺舞」は全国的に見られますが、「ガニ舞」「婆ジョウ舞」「バッキー舞（伝承者 柳田拓男氏）」などは南種子にしか伝承されていないとても貴重な舞です。そのため、昭和 56 年に文化財保存活用事業を行い後継者の育成に努め、平成 7 年には「種子島南種子の座敷舞」として記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として国により選択され、その伝承に努めています。



平山に伝承されている「鳥刺舞」（伝承者 平山郷土文化保存会 中畠一三氏）